平成19年度　ソーダ工業用塩需給見通しのポイント

平成19年3月30日
経　済　産　業　省
製造産業局化学課

1．見通しのポイント

平成18年度のソーダ工業用塩の需要量は、国内経済が回復基調にあることを背景に、国内需要は堅調に推移しているものの、輸出が減少することから、7，101千トン（前年度比98．3%）となる見込み。

平成19年度については、引き続き輸出は減少するものの、内需がやや増加する見通しから、7，168千トン（前年度比100．9%）となる見込み。また供給数量は、需要量の増加と期末在庫を積み増す傾向があることから増加となる見込み。

（単位：千トン、カッコ内は対前年度比）

	平成17年度（実績）	平成18年度（見込み）	平成19年度（見通し）
か性ソーダ用塩需要量	6，679 (99.1%)	6，550 (98.1%)	6，634 (101.3%)
ソーダ灰用塩需要量	527 (97.8%)	537 (101.9%)	524 (97.6%)
塩素酸ソーダ用及び金属ソーダ用塩需要量	16 (106.7%)	14 (87.5%)	11 (78.6%)
合　　計	7，221 (99.0%)	7，101 (98.3%)	7，168 (100.9%)

2．か性ソーダ及び塩素の需給について

平成18年度のか性ソーダの需要は、内需は堅調に推移、輸出は内需に押される形で減少している。また塩素の需要は、TDI・MDI向けは増加しているものの、塩化ビニル向けなどが減少している。よってか性ソーダ生産量は、一部の電解プラントが停止した影響もあり4，413千トン（前年度比：97．8%）、か性ソーダ用塩需要量は、6，550千トン（同比：98．1%）となる見込み。

平成19年度のか性ソーダの需要は、輸出は引き続き減少するものの、内需がやや増加することから、総じて需要は堅調に推移する見通し。また塩素の需要は、脱塩素化により紙・パルプ向けは減少するものの、塩化ビニル、TDI・MDI向けなどが増加する見通し。よってか性ソーダの生産量は、4，452千トン（前年度比：100．9%）、か性ソーダ用の塩需要量は、6，634千トン（同比：101．3%）となる見通し。

（単位：千トン、カッコ内は対前年度比）

	平成17年度（実績）	平成18年度（見込み）	平成19年度（見通し）
か性ソーダ生産量	4，512 (99.4%)	4，413 (97.8%)	4，452 (100.9%)
か性ソーダ用塩需要量	6，679 (99.1%)	6，550 (98.1%)	6，634 (101.3%)

3．ソーダ灰の需給について

平成18年度のソーダ灰（国内産）の需要は、主要用途となるガラス製品、石けん・洗剤向けが増加していることから、ソーダ灰の生産量は、441千トン（前年度比101．1%）、ソーダ灰用の塩需要量は、537千トン（同101．9%）となる見込み。

平成19年度のソーダ灰（国内産）の需要は、内需は前年度並みに推移するものの、生産がやや減少することから、ソーダ灰の生産量は、430千トン（前年度比97．5%）、ソーダ灰用の塩需要量は、524千トン（同97．6%）となる見通し。

（単位：千トン、カッコ内は対前年度比）

	平成17年度（実績）	平成18年度（見込み）	平成19年度（見通し）
ソーダ灰生産量	436 （98.0%）	441 （101.1%）	430 （97.5%）
ソーダ灰用塩需要量	527 （97.8%）	537 （101.9%）	524 （97.6%）